

札幌市立新光小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

本校の特色の一つとして『心豊かな新光の子を育てる会』（以降育てる会）の存在がある。これは学校・保護者・地域が一体となり、児童を育成していこうとする団体である。育てる会の年間行事の中の一つに雪と親しむことを目的とした『新光雪あかり村』がある。この行事は今年で 11 回目を迎える長く続いているものであるが、活動の時数確保が課題であった。今回、生活科と総合的な学習の内容を再編成し、この行事に向けての活動を教育課程に位置付けることで、適切な活動時数を確保し、児童がのびのびと雪に親しみ、楽しく活動することをねらいとした。

2 取組内容

(1) 生活科

① 1年「ゆきやかぜとあそぼうよ」

これまで遊んできたグラウンドや公園の動植物の変化などから季節の移り変わりを意識させた。降雪後は、実際に雪とふれあい、雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり、そり滑りをしたりしていく中で、北国ならではの雪の中で遊ぶという感覚に浸らせる。この遊び活動の延長として「新光雪あかり村」の主たる活動である雪像作りに移行していく。雪遊びの経験から雪を固める・積む・凍らせる・色を付けるなど豊かな発想が出てきた。



② 2年「みんなでつくろう あそびのわ」

1年生で取り組んだ活動をふまえて、自分たちが行っている遊びの他にどんな冬の遊びがあるのかを調べたりインタビューしたりすることで、冬を楽しく過ごす工夫を探した。

雪あかり村の準備では、牛乳パックを使って氷を作って雪像に組み込むなどの工夫をして、雪像作りの幅をさらに広げていった。

(2) 総合的な学習

① 3年「みんなでつくろう雪あかり村 ～雪の不思議大発見～」

これまで生活科で取り組んだ雪を使った遊びの経験を土台として、雪の観察や調査活動を行い、雪への理解を深めることをねらった。雪の結晶の写真を見て不思議に思ったことや知っていることを話し合うことで興味・関心を高め、実際の雪の結晶を観察することで活動を深めていった。観察用のルーペとベルベットを貼った板が人数分用意されているので、全員が同じ条件で観察できた。

② 4年「みんなでつくろう雪あかり村 ～雪と生きる～」

社会科の「雪とくらす」と関連付けて冬の暮らしについて調べ活動を行った。また、国語科の「わたしの研究レポート」と関連付けて、雪あかり村の雪像作りの様子を記録し、発表する活動を取り入れた。

③ 5年「みんなでつくろう雪あかり村 ～冬を豊かに～」

全道の市町村や観光局のホームページを調べ、冬の北海道のイベントについて調べた。北海道の各地で冬のイベントが行われていることから住民たちの雪国ならではの楽しさを発信しようとする気持ちを知った。雪あかり村も同様に、先輩方や地域の方たちの思いのつまった行事であることを知り、自分たちも雪あかり村を受け継ぐ者として盛り上げていこうという意欲を高めた。

④ 6年「みんなでつくろう雪あかり村 ～雪の街 札幌～」

冬の札幌の観光資源を調べることから、自分たちが住んでいる札幌の気候や特徴、魅力を知ることになった。また、調べたことをもとに、雪あかり村の取組に積極的につなげていけるように支援をした。札幌には冬の一番のイベントである雪まつりがあったり、スキーなどの雪国ならではのスポーツを楽しめたりすることに気付き、雪の存在を好意的に捉えて観光資源としていることを学んだ。自分たちが雪の多い地域に住んでいることを誇りに感じ、関わっている雪あかり村を成功させようという意欲が高まった。



3 成果と課題

(1) 成果

本実践では、これまで各学年ごとに児童活動や行事、学級活動、生活科、総合的な学習などに割り当てていた活動時間を精選し、教育課程に盛り込むことで活動時間を確保することができた。担任も時間割の中に活動を設定しやすくなり、計画的に進めることができた。

雪像作りや雪の観察に必要な道具をそろえることができたために、全員が待ち時間なく一斉に活動することができた。意欲が途切れることなく集中して活動できたことで児童の満足度も高かった。一般的に雪国で生活していると、除雪の大変さが勝り、純粹に降雪を楽しめなくなることが多い。本実践を通して改めて雪で楽しむことを実感し、冬の訪れを前向きに考えることができた児童が増えた。札幌の特徴である雪に親しむことは郷土愛へつながる思いである。今後もよりよい活動にしていけるようにしていきたい。



(2) 課題

1年間の学習活動の中で計画的に実践できるように教育課程に位置付けることが本活動の長年の課題であった。今回それを整えることができたが、外国語の導入など、新たな学習が入る場合など、状況をみて活動や時数の見直しを年度前に計画的に進めていかななくてはならない。

